

育成 モノづくり人材 Vol. 17

技術者を育んでいる。将来の柱に、機械、電気、土木、建築の4学科を設ける。このうち97年に新設した建築科は工業高校には珍しく1学年40人中10人ほどが女子生

題を呼んだ。大工の基礎となる国家資格の技能検定3級に1年生全員が合格したのだ。同校を卒業した池田積校長は「全国でもまれなこと」と胸を張る。その背景には厚生労働省の「ものづくりマスター制度」がある。13年にマイスターとして認定され、大工や職業訓練校の講師としても、録画した手本として活躍する林田俊彦氏が、週に1回出張授業を行う。佐賀県の県立高校では14年度にタブレット端末（携帯型情報端末）が導入され、13年にマイスターとして認定され、大工た。生徒は講師の不在時に、も、録画した手本となる動画を見返すこと、で、効果的に技術向上につなげている。

一方、地域連携にも活発に取り組む。唐津市相知町は江戸時代から残る農業用水に使う活水車が風物詩

ると学科の廃止が検討される。「地域連携で認知度を上げ、工業技術を進学したい子どもが生まれればうれしい」と田校長は期待する。

(西部・増重直樹)
(金曜日に掲載)

佐賀県立唐津工業高等学校

津工業高校
70周年を迎えた。モノ
づくりを通じた地域社
会への貢献、部活動を
通して心身を鍛えると
いう二つの「人づくり」
拳が高校関係者のご
徒だ。そんな建築科
14年に起きた「ある日」
津市立第三中学校



池田校長

1年生全員 技能3級合格

【DATA】▷校長＝池田積氏▷所在地＝佐賀県唐津市▷学科構成＝機械科、電気科、土木科、建築科▷総定員＝480人▷主要設備＝マシニングセンター、太陽光発電装置、CADシステム、パワーショベル、トータルステーション▷主な進路＝トヨタ自動車、日産自動車、アイシン精機、九州電力、九電工、新日鉄住金、住友林業、佐賀大学、福岡工業大学など



唐津市相知町にある「町切水車」の取り付け作業を行う生徒

え、建築研究部の生徒数人が取り付けに携わった。また同市では毎年11月に九州を代表する祭りの一つ「唐津くんち」が開かれる。過去に消失した曳山を復旧するため、イメージの土台となる模型を作した。

佐賀県内の高校では2年連続で定員割れすると学科の廃止が検討される。「地域連携で認知度を上げ、工業性を進学したい子どもが増えるればうれしい」と述べた田校長は期待する。(西部・増重直樹)(金曜日に掲載)